

景況レポート

(6月分・情報連絡員60名)

非製造業で悪化割合が大幅に減少し、 全体景況DI値は上昇

【概況(全体)】

6月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが3.3%(前回調査0%)、「悪化」が75.0%(同88.3%)で、業界全体のDI値は-71.7となり、前月調査と比較し16.6ポイント上回った。

本県の景況DI値は上昇したものの、4カ月連続で全国及び東北・北海道ブロックを下回る結果となった。

【業界別の状況】

新型コロナウイルス感染症の影響が続いている状況にあるが、非製造業で悪化割合が大幅に減少し、特需により好転したとする業種があったことで、全体景況DI値は上昇することとなった。

新型コロナウイルス感染症の発生により、2月以降、ほとんどのDI値は大きく悪化していたが、緊急事態宣言の解除による経済活動の再開により、上向き傾向がみられる。また、各種補助金や緊急融資の効果も寄与しているものと思われる。

業種を問わず、新型コロナウイルス感染症の影響が長引くにつれ、経営が圧迫され、先行きを不安視している声も増えている。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-71.7	-69.2	-64.2
製 造 業	-87.5	-74.7	-68.0
非製造業	-61.1	-65.1	-62.0

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製 造 業							
非製造業							

【凡例】

快晴 30以上	晴れ 10以上 30未満	曇り △10以上 △30未満	雨 △10未満	雷雨 △30以下

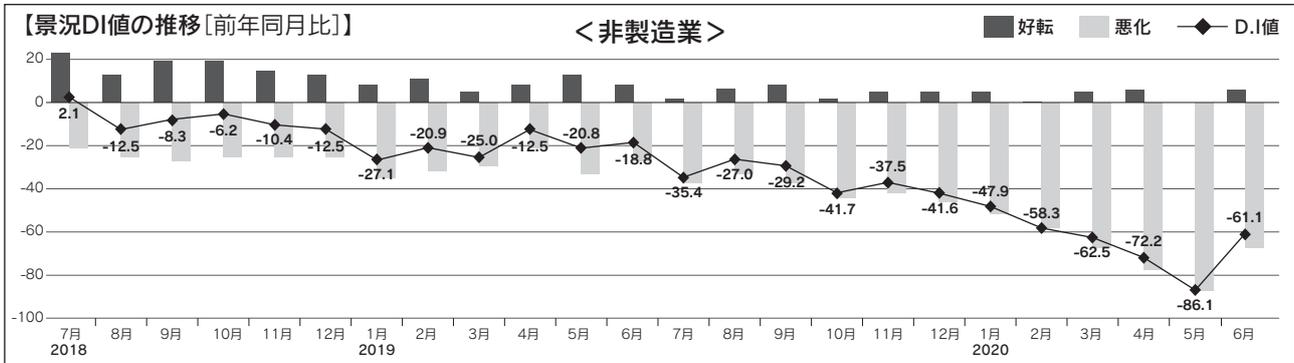
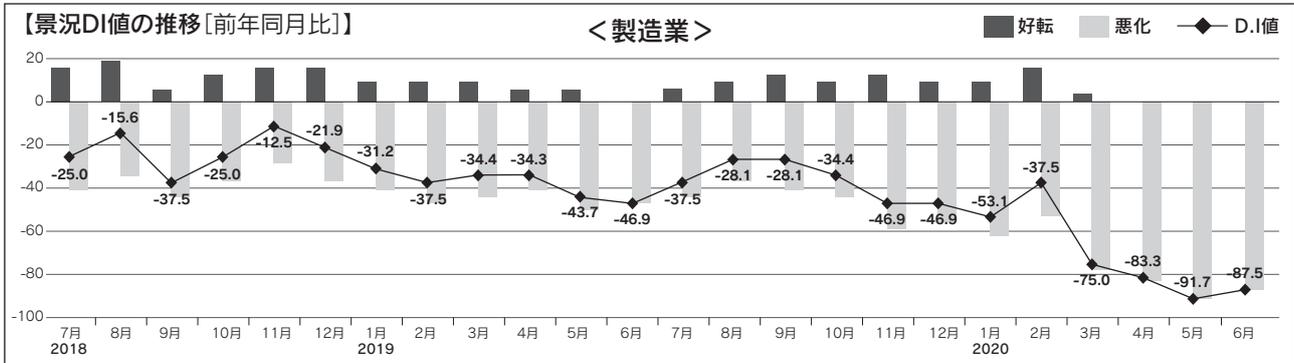
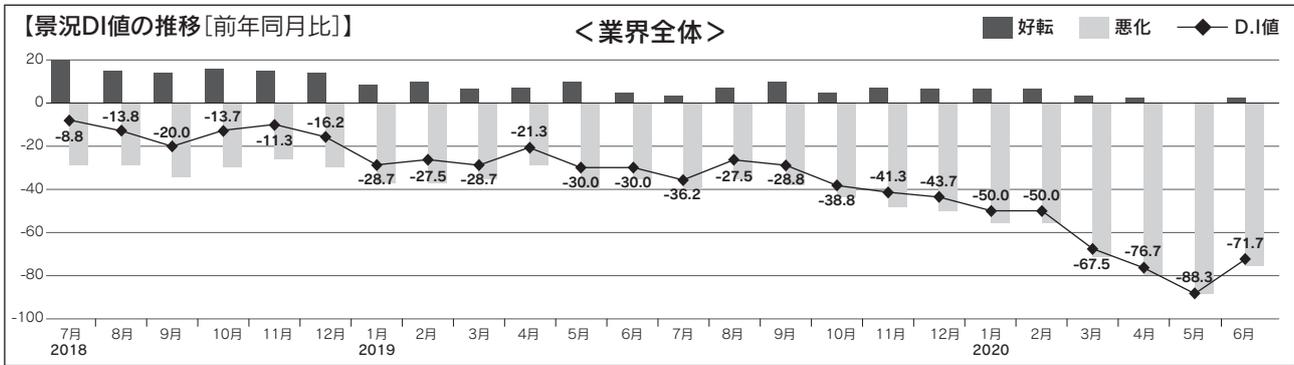
【天気図の見方】
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：24名 回答率：100%)

食 料 品 (豆 腐)	学校給食は再開したが、ホテルを含む飲食店の売上が回復に至らず、売上は低迷している。加えて、豆腐の需要が落ちる季節となり、景況は悪化している。
食 料 品 (パ ン)	ステイホームが続ぎ、内食の需要が増加したことでコンビニの売上が落ちたが、スーパーの売上は順調であった。各種催事が中止となっており、この影響で売上を大きく落とした事業所もある。
食 料 品 (精穀・製粉)	新型コロナウイルス感染症の影響で売上減少が止まらない。特に観光みやげ品用原料の売上回復に目途が立たない状況である。
繊維工業 (織 維)	受注状況が悪く、秋・冬物は前年比60%~70%となっている。今後の春・夏物も同程度と見られることから、医療用ガウンの受注を考えている。
木材・木製品 (一般製材)	6月も新型コロナウイルス感染症による営業自粛、住宅展示場閉鎖等によって、売上が15%減少した。製品出荷量が減少しており、原木の仕入も受入れ量の調整を行っている。7月~8月は更に荷動きが停滞し、売上減少により資金繰りが厳しくなりそうである。荷動き低迷の期間が不透明で、今期の業績予測がつかない状況になっている。
木材・木製品 (外 材)	スギ原木については、合板用原木の入荷制限の影響で余剰となっている状況にあり、製材用原木の値下がりに続いて合板用原木価格についても下落傾向にある。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	6月の出荷数量は前年同月比99.7%である。4月~6月累計では95.3%となっている。中央地区の文化施設、能代山本地区の日浴道、統合高校、男鹿南秋地区のトンネル工事があるが、県南地区が落ち込んでおり前年を下回った。新型コロナウイルス感染症の影響も危惧される。
鉄鋼・金属 (鉄 鋼)	新型コロナウイルス感染症の影響により、新規見積、民間工事、公共工事とも極端に少ない状況が続いており、工事量は前年比約5~6割程度は落込んでいる。全く先が見えず、深刻な状況にある。
一 般 機 器 (金属加工)	受注は大幅に減少し、先行きが見えない状況である。7月から一時帰休を実施する事業所もある。資金繰り面も厳しく、借入金が増加している。
そ の 他 (漆 器)	他県への移動自粛が解除されているが、団体観光客がまだ戻っていないこともあり、工芸館の売上減少が続いている。県外の催事やイベントも6月は中止や延期となっていたため、在庫が捌けず、職人の仕事は薄い状況にある。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：36名 回答率：100%)

卸売業 (商業卸)	新型コロナウイルス感染拡大防止対策の自粛要請の解除もあり、少しずつ回復しつつあるが、依然として売上は厳しい状況が続いている。
卸売業 (青果)	売上高は前年同月比100.6%で推移した。新型コロナウイルス感染症による自粛体制が緩和されたため、スーパーマーケットを中心に青果物の動きにも改善傾向が見られた。ただし、主力商品の玉ねぎ等は価格低迷が続いており、売上高の割に利益は全般に薄い傾向となった。ホテル関係、飲食店等からの業務用需要は営業自粛の影響が続き、低迷が続いている。
小売業 (電機)	前年同月比121.7%で推移した。「特別定額」、「持続化」各給付金の恩恵で、子ども部屋にエアコン取付や買替需要でのエアコン、冷蔵庫の販売が好調だった。また、6月末で終了した「消費者5%還元」の駆けこみも多かった。
小売業 (花卉)	6月から国・県・JAグループが全額負担して、県産のお花を使用し、学校や公共施設にお花を飾るキャンペーンとブライダルフラワーキャンペーンをしていることで花の動きは前年に近づいてきているが、キャンペーンを除けば大きく落ち込んでいるのが現状である。
商店街	カード事業で、キャッシュレス消費者還元事業に伴うイベントを実施したことが功を奏し、前年程度の売上は確保できた。(鹿角市)
サービス業 (自動車整備)	自動車検査台数実績は、全体では前年同月比で5.9%の増加となった。内訳は登録車が4.6%の増加、軽自動車も7.6%の増加となった。隔年で検査台数が減少する月ではあるが、前月の減少した台数が6月に受検した結果と想定される。
サービス業 (タクシー)	他県への移動の自粛要請が緩和されたこともあり、県内でも週末を中心に夜の繁華街からの利用が、少しずつではあるがもどりとつつある。ただ、潜在的自粛ムードが続くと思われる。ホテル等での宴会を伴う会議開催が活発ではないようである。一部地域では、タクシーによるデリバリーサービスを実施しており、今後の展開が期待される。
建設業 (一般土木建築)	新型コロナウイルス感染症の影響で、工事に関しては正常化とはなっていない。
建設業 (電気工事)	新型コロナウイルス感染症の自粛期間が解除となったが、大きな物件も少なく、一般住宅の動きも悪い。今夏の暑さ対策のため、国からの給付金を利用してエアコン設置の需要が生じている。
運輸業 (トラック)	例年、6月は5月より売上が伸びるのだが、今年は横ばいであった。燃料価格も上昇に転じ、これから収益面で厳しくなりそうである。